

徳本如来入佛縁記上

徳本如来入佛縁記上

徳本如来入佛縁記上

御直作之
御木像

抑紀州の

山中に出現

し給ひける

徳本上人のその

由来を尋奉るに、若年の

御時より仏法の奥旨を修行

ましくして、一切の経とて数年

の山行に自然と悟道し給ひて、

山中にこもり給ふ事年久しく、



徳本如来入佛縁記上

〈元日の御詠 けふより八本卦へ

帰る六十一ミだの

浄土へ戻る

徳本

御直作之御木像

抑紀州の

山中に出現

し給ひける

徳本上人のその

由来を尋奉るに、若年の

御時より仏法の奥旨を修行

ましくして、一切の経とて数年

の山行に自然と悟道し給ひて、

山中にこもり給ふ事年久しく、

生涯徳本念仏といふ事を弘め給ふ、説法のおりも
 たゞ南無阿弥陀仏の名号ばかりを以て衆しようを
 さいとし給ふ、一生の間五穀を喰し給わす、身にも美服
 を着給わす、鼠染・もくらんじの二色の外ハ着し給わす、只
 昼夜に念仏しゆぎやうし給ひければ、諸人近代の聖僧
 いきぼとけとたつとび奉りける、六十余州悉く遊行し
 給ひて以前二下り給ひ、又々近年江戸の寺院所々にして
 衆人に十念をさづけ給ふ、其徳をしたひ江戸ハいふに
 及ばす近国他国方其寺院へくわんじゆなす事
 あげて云んかたなし、此一両年前方天数の未前を悟らせ
 給ひけるにや、小石川に原町一行院の旧地を再建し給ひ
 しか、則其所にて今年文政元寅のとし九月の始方
 御ふれいの事なりしが、十月六日暁がた御称名の
 御声もろとも眠るが如く入滅ならしめ給ふ、則十夜
 のなかばにあたつて御年六十一歳にして本卦の
 元にかへらせ給ふ、今生のいきぼとけ来世の
 阿弥陀如来有がたかりける御にうめつなり、
 御送葬のしき諸寺諸山の寺院念仏の
 崇師いく万といふ数をしらず、門前にくんじゆを
 なし皆感歎にむせびしハ有難かりし次第なり、



生涯徳本念仏といふ事を弘め給ふ、説法のおりも
 たゞ南無阿弥陀仏の名号ばかりを以て衆しようを
 さいとし給ふ、一生の間五穀を喰し給わす、身にも美服
 を着給わす、鼠染・もくらんじの二色の外ハ着し給わす、只
 昼夜に念仏しゆぎやうし給ひければ、諸人近代の聖僧
 いきぼとけとたつとび奉りける、六十余州悉く遊行し
 給ひて以前二下り給ひ、又々近年江戸の寺院所々にして
 衆人に十念をさづけ給ふ、其徳をしたひ江戸ハいふに
 及ばす近国他国方其寺院へくわんじゆなす事
 あげて云んかたなし、此一両年前方天数の未前を悟らせ
 給ひけるにや、小石川に原町一行院の旧地を再建し給ひ
 しか、則其所にて今年文政元寅のとし九月の始方
 御ふれいの事なりしが、十月六日暁がた御称名の
 御声もろとも眠るが如く入滅ならしめ給ふ、則十夜
 のなかばにあたつて御年六十一歳にして本卦の
 元にかへらせ給ふ、今生のいきぼとけ来世の
 阿弥陀如来有がたかりける御にうめつなり、
 御送葬のしき諸寺諸山の寺院念仏の
 崇師いく万といふ数をしらず、門前にくんじゆを
 なし皆感歎にむせびしハ有難かりし次第なり、

2023. 3. 27 岡本浄上人より拝受、アイデイトナカで表装、一行院に寄贈

1 枚目 32. 2×22. 2

2 枚目 32. 7×22. 7